

見当らなかったで、証拠のため地上5 cm位のところで切って根を残し、地上部だけを採取して標本にした。それでも気掛りだったので、1987年夏根羽村へ訪れるたびに寄って探してみたが、ついに見つけることができなかった。平谷村より南では自生地が知られておらず、餅小屋が木曾山脈側で最南の地と目されただけに惜まれ、かつ慚愧にたえない。

16. エンレイソウ *Trillium smallii* Maxim.

1987年5月31日、大鹿村塩川上流の広河原と三伏峠登山道取りつき口との間の塩川右岸の林内に、かなりの数のエンレイソウが、シロバナエンレイソウと混じって生えていた。ここが下伊那で私が知る確たる唯一の産地である。

17. レンブクソウ *Adoxa moschatellina* L.

レンブクソウは下伊那では極めて稀で、従来松川町生田区福与にある嶺岳寺裏から採集された標本（採取者不明、1932年4月30日）を知るのみであった。ところが、1980年5月4日に大鹿村釜沢で、1987年5月31日に前項エンレイソウの産地より少し上流で生育地を発見した。前者では林縁に、後者では北斜面の陰湿な林床と苔生した岩上に生えていた。ともに生育地の面積は狭いが、個体数は多かった。

18. イイギリ *Idesia polycarpa* Maxim.

1986年11月22日、阿南町富草区鴨目にある鴨目集会所近くの道路脇の林内に、赤い実をたわわにつけたイイギリが一本立っているのを見た。これでイイギリは、前報の産地天龍村坂部から直線で14kmほど内陸部に向って北上していることになる。

19. ウスギオウレン *Coptis lutescens* Tamura

『伊那谷の植物』(1986)に私はウスギオウレンとコセリバオウレンを載せた。前者は阿南町且開区大村に鎮まる諏訪社の境内で、後者は飯田市伊賀良区北方にある社の森で撮影した写真を採用した。その後清水建美(1987)の記事を知って調査しなおしたところ、後者もまたウスギオウレンであることが確められたので、ここに訂正させていただく。

20. ジュンサイ *Brasenia schreberi* J. F. Gmel.

下伊那では松川町大島区名子にある溜池と、阿南町且開区大村殿林にある小さな池の二か所が産地として知られていた。そのうち後者が現在進行中の国道151号線付け換え工事で埋め立てられてしまっているのを、1987年3月31日の調査行で知った。惜しいことをしたものである。

21. ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn.

下伊那で報ぜられているのはただ一か所、飯田市山本区竹佐である（『下伊那の植物中巻』1973）。そこは旧飯田市立山本中学校の下谷間に設けられた溜池であったが、1986年8月22日再調査に訪れたところ、旧国鉄時代に進められた下呂線（飯田市～岐阜県下呂町）の建設工事で埋められて溜池がなくなっていた。そのため生品では同所のものを検討することができなくなった。

本報で扱った新産地については、証拠標本を近く信州大学教養部生物学教室標本庫（SHIN）に納めさせていただき所存である。

〔植物ニュース〕117. ワタムキアザミ *Cirsium tashiroi* Kitamura

本種は、伊勢湾周辺の山地に分布し長野県では木曾・下伊那にある。このたび、上伊那郡辰野町で見出しした。周囲1 ha以上で相当数の個体があった。今井建樹氏に見ていただいたところ、ワタムキアザミにまちがいないとのことであった。分布の北限になるのだろうか。ワタムキアザミとヒダアザミは、根葉や茎葉の状態のちがいで区分している。1987年10月8日 上伊那郡辰野町大字伊那富。（元島清人）

118. カライトソウ *Sanguisorba kakusanensis* Makino

これまでに県内では、北アルプス（白馬～針ノ木等）に知られていたが、新たに戸隠山で発見した。

北アルプスでは群落が見事であるが、戸隠山では個体数が少なく、生えている場所は岸壁直下の湿潤な地である。他の日本海地域の山岳にもあるだろう

か。1982, 7, 20, および1983, 8, 31 上水内郡戸隠村。（元島清人）

119. オオアワガエリ *Phleum pratense* L.

1967年9月2日に木曾郡日義村幅で採集したオオアワガエリは立ったまま種子が発芽し4～7mmにのびている。こんなのが数株あったと記憶している。文献には見あたらないが各地にありそうに思う。

（奥原弘人）

120. ベニバナイチヤクソウ（白花） *Pyrola incarnata* Fischer

ベニバナイチヤクソウの純白花。1987年6月8日諏訪郡富士見町の入笠山登山口。ベニバナイチヤクソウの群生する中に2花茎が見られた。この白花品についての報告がないようであるので、和名はユキベニバナイチヤクソウとしたい。（今井建樹）